



おやこ通信

第16号



全国的にインフルエンザが流行しています。年明けには季節性インフルエンザの流行も予測されます。少し遅くなりましたが、今回はインフルエンザについてご紹介します。

<インフルエンザかも！ どうしたらいい？>

インフルエンザが疑わしい場合、鼻水を採って迅速検査を行ないます。数日以内に家族が既に発症し、確定診断も受けていれば、検査を省略して抗ウイルス薬を処方する場合があります。一方、インフルエンザに似た症状の別の病気も多く、身近にインフルエンザ患者がいなければ、迅速検査が陽性になるまで抗ウイルス剤を処方しないこともあります。この場合、発熱直後に来院されても検査は陰性のことが多いため、なるべくなら38℃以上の発熱に気づいて数時間～半日後くらいに受診していただくとより正確に診断がつきます。

<おくすりについて>

①抗ウイルス剤（タミフル・リレンザ）

ウイルスの増殖を抑え、発熱期間が1日ほど短くなると考えられます。発熱後48時間を過ぎていると効果はないとされます。発症早期に服用することで脳症や肺炎合併を抑えることも期待されています。



②解熱剤

もっとも安全と考えられているのはアセトアミノフェン（カロナールなど）です。

一時的に熱を下げて、その間に体力の回復を図るために使用するもので、

根本的治療ではありません。水分が摂れて、普通に眠れているのなら無理に使わない方がよいです。



こどもの症状 チェックポイント

手足をつっぱる、がくがくする、眼が上を向くなどのけいれんの症状
ぼんやりして視線が合わない、呼びかけに答えない、眠ってばかりいる
意味不明なことを言う、走り回る
顔色が悪い（土気色、青白い）、唇が紫
呼吸が速く（1分間に60回以上）、息苦しそう
ゼーゼーする、肩で呼吸をする、全身を使って呼吸をする
「呼吸が苦しい」「胸が痛い」と訴える
水分が摂れず、半日以上おしっこが出ていない
嘔吐や下痢が頻繁にみられる
元気がなく、ぐったりしている

<こんなときは要注意>

子供が新型インフルエンザに感染し早く受診しても自宅に戻ってから重症化するケースが出ているため、厚生労働省と日本小児科学会はH21年12月、自宅療養の際に注意すべき10項目を公表しました。

同省などによると、ほとんどの子供は新型インフルエンザにかっても3～5日間発熱が続いた後に自然治癒しますが、まれに急性脳症や心筋炎、肺炎を合併したり、脱水を起こすことがあります。

左の表はこうした重症化を防ぐためのチェックポイントをまとめたものです。このような症状が出た場合は、近隣の大きな医療機関を早急に受診しましょう。

